

研究課題名：	ヒトヘルペスウイルス 6・7 感染症の迅速診断に資する研究
所属(診療科等)：	公立昭和病院 小児科
研究責任者(職名)：	大場 邦弘 (副部長)
研究期間：	2021年8月31日～2024年3月31日
研究目的と意義：	<p>乳児期後半から幼児期早期に好発する熱性発疹症である突発性発疹は、ヒトヘルペスウイルス 6・7 (HHV-6・7) の初感染で起きることが知られております。合併症には熱性けいれんや脳炎・脳症などの中枢神経系合併症が多く、HHV-6 初感染時の脳炎・脳症は本邦で年間約 70 例程度発生し、そのうち半数に重篤な神経学的後遺症を残しております。現状では、一般的な医療機関が自施設において、HHV-6・7 の病原体検査ができないのが実情です。そのため、一般的な医療機関でも行える簡便で迅速性の高い検査系を開発することが必要不可欠です。そこで、HHV-6・7 感染疑い患者もしくは HHV-6・7 感染が否定できない患者から採取された検体または診療のために採取された臨床検体の残余および過去に医学研究倫理審査で承認された「2019-新型コロナウイルス(2019-nCoV)感染症対策に資する開発研究」・「感染症の診断機能向上ならびに重症化因子に関する研究」で取得され保管されている既存試料を使って検査系の開発を進めるとともにウイルスの特徴と病原性を調べることで、将来、HHV-6・7 脳炎・脳症への早期治療介入も可能となり、神経学的後遺症の軽減につながるものと期待され、社会的意義は非常に大きいと考えられます。</p>
研究内容：	<p>●対象となる患者さん 2018年10月1日から2024年3月31日の間に、HHV-6・7 感染疑い患者もしくは HHV-6・7 感染が否定できない患者から採取された検体または診療のために採取された臨床検体の残余および過去に医学研究倫理審査で承認された「2019-新型コロナウイルス(2019-nCoV)感染症対策に資する開発研究」・「感染症の診断機能向上ならびに重症化因子に関する研究」で取得され保管されている 4 歳未満の患者さんの既存試料と情報を対象とする。</p> <p>●利用するカルテ情報 年齢・性別・症状・身体所見・検査結果・治療経過についての記録等</p> <p>●研究方法 国立感染症研究所に提供された試料と情報により、前向きおよび後ろ向きに検討を行う。</p> <p>●利用する研究機関の範囲 公立昭和病院、国立感染症研究所</p>
問い合わせ先：	<p>【研究担当者】 氏名：大場 邦弘 (小児科医師) 住所：小平市花小金井 8 丁目 1 番 1 号 電話：042 (461) 0052 (代表) FAX：042 (464) 7912 【ご意見・相談窓口】(臨床研究・診療内容に関するものは除く) 総務課 042 (461) 0052 内線 2247 受付時間：月～金 9:00～17:00 (祝・祭日を除く)</p>